

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 すきっぷ神楽Ⅱ		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 16日		令和8年 2月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 6名	(回答者数)	5名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 25日		令和8年 3月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	挑戦する気持ちを育てる運動支援	野球やスキーなどの運動活動を通して、子どもたちが挑戦する経験を積み重ね、成功体験を感じられるよう支援しています。	活動後の振り返りを行い、子どもたちが成功体験を感じられる関わりをさらに充実させていきます。
2	社会性を育てる関わり	挨拶や礼節を大切に、活動や遊びの中で自然に身につけられるよう関わっています。	日々の活動の中で、挨拶や順番を待つこと、譲り合うことなどの社会的ルールを繰り返し経験できる場を大切に、子どもたちが自然に身につけられるよう関わっています。
3	楽しさと成長のバランス	遊びと活動のメリハリを大切に、楽しむ時間と頑張る時間の切り替えを意識することで、子どもたちが主体的に活動に参加できる環境づくりを行っています。	活動や遊びの中で子どもたちが主体的に参加できる機会を大切に、頑張ったことやできたことを振り返る時間を設けることで、楽しさと達成感の両方を感じられる支援を行っています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子ども同士の関わりの中で、支援のタイミングが遅れてしまい、気持ちが落ち込んでしまう場面が見られることがあります。	活動中の配置や役割の共有が十分でない場面があり、子どもの関わりを適切なタイミングでサポートできないことがあります。	職員研修やロールプレイを通して、子どもの関わり方のタイミングや支援方法について学びを深めています。
2	職員ごとに声掛けや支援方法に違いが生じることがあり、子どもたちが戸惑う場面がありました。	支援の振り返りや情報共有について、子どもの状況を職員全体で十分に共有できない場面がありました。	日々のミーティングで子どもの様子や支援方法を丁寧に共有し、職員全体で統一した関わりができるよう取り組みます。
3	職員間の情報共有が薄く、子どもの様子や支援内容が十分に共有されない場面がある。	情報共有の方法が個人に依存する部分があり、子どもの状況をチームで共有する仕組みをさらに整える必要があります。	職員同士で意見を出し合いながら振り返りを行い、より良い支援につなげていく環境づくりを進めていきます。